

不当転勤弾劾集会開催！

会社との面談でわかったこと

その2

長田さんは、8月12日の転勤打診以降、何度か会社と面談を行って来ました。

当初、会社は「山形と指令で要員が逼迫している」「指令を希望していないのであれば、宮城野で気動車免許を活かして欲しい」と言われたとのことでした。

山形の要員問題は、長田さん自身も聞いていたので、気動車免許やつばさも乗れる自分であれば戦力になれるのではないかと考えたそうです。しかし、山形の要員が逼迫しているのになぜ宮城野なのか？山形であれば納得できるが、そもそも転勤希望は出しておらず、福島で若手の育成に携わりたい。将来的には指導員を目指したいと考えていました。

当初は要員問題を話していた会社でしたが、「気動車免許を活かしてほしい」や「レベルアップ」など、理由ならざる理由を並べて来ました。また、「指導員は主務職が妥当*」と言ってきました。

「とことん話をする」など、長田さんに寄り添うかのような姿勢を見せましたが、当初から会社の姿勢は、異動する事が大前提で、本人希望を無視して転勤させられてきた仲間と同じ理由「気動車免許を活かしてほしい」「スキルアップ」「長期滞留者」で納得できる理由は示されませんでした。

運転業務は経験労働とも言われ、経験が重要視されている中で、長期滞留を理由に経験豊富な社員を転勤させてしまう事は、極めて安全問題だと言えます。

何より、転勤は人生を左右しかねない重大な事です。「ダイヤ改正でも生活設計が変わる」と会社が言ったとか言わないとかありますが、勤務地や職場環境が変わることと同義にしてはたまったものではありません。家庭があれば、その家庭にも多大な影響を及ぼしかねません。

そのようなやり取りがあった中で、長田さん自身、このままではいけないと決意し、簡易苦情処理申告を決意しました。

*解説

現在の人事・賃金制度を導入する際、団体交渉の場で会社は「指導員は主務職が望ましい」との姿勢を示しました。

